

科目区分：学校教育実践コース（国語教育専修）、国際理解教育コース、
授業科目名：日本語研究、日本語文法論

「日本語研究」「日本語文法論」授業評価報告

所属講座：国語・氏名：佐藤栄作

1. 授業の概要

(1) 目的

中学校・高校の国語科教員あるいは日本語教師として身につけておくべき日本語の概要を学んだ者が、特に重要な分野について、深い知識を得、分析法を学ぶ。

(2) 到達目標

現代日本語文法で注目される事象、問題となるテーマを挙げられる。学校文法の特色と問題点について説明できる。

(3) 授業の概要

いわゆる学校文法を批判的に採り上げつつ、現代日本語文法について講述した。

特に、「文節」とその問題点、「主語」とその問題点、「は」と「が」、「修飾語」の問題点、品詞分類の問題点、活用と活用形の問題点、アスペクトと動詞分類、「ヨル」と「トル」について、解説し、ともに考えた。

2. 受講生数

28名（学校教育22名、障害児教育1名、情報文化4名、法文学部1名）

3. 学生の評価

学生アンケート（27名）の結果

最も印象に残ったこと（複数あり）

「ヨル」「トル」とアスペクト	14名
学校文法の問題点	5名
「は」と「が」	2名
文法を教えることの困難さ	1名
その他	4名
未記入	5名

教師になって役に立つと思うことはあったか

いくつかあった	20名
少しはあった	7名
ほとんどなかった	0名
役に立つと思ったのはどんなことか	
学校文法の問題点	9名
方言「ヨル」「トル」	6名
学校文法の改善	3名

子供の質問への対応	3名
教師としての心構え	2名
その他	17名
未記入	0名
授業の改善すべき点	
改善のための具体策	2名
字をきれいに	1名
板書をわかりやすく	1名
一部説明が不十分	1名
特になし	5名
未記入	18名

4. 自己評価

昨年と同じアンケートを実施した。「講義で最も印象に残ったこと」は今年も「ヨル」「トル」だった。受講生にとって身近な語法が、共通語に存在せず、しかも共通語にない働きを持つことは、大きな驚きであり、痛快な感じを持つようだ。こうしたことを、なぜ学校の文法ではこれまで教えてくれなかったのか、これを教えるなら面白い文法の授業になるのに・といった感想もあった。現実には、多くの問題と矛盾を抱えている学校文法を短時間で教えなければならない。問題点を実感させ、あらかじめ問題点を承知することが教える際には大切であることを繰り返し述べたが、「具体的な改善策を示してほしい」という学生の声は、かえって切実なものとなっている。これに応えていかねばならない。

しかし講義自体の評価は概ね良好だった。学校教育の方にシフトした内容だったが、情報文化の学生からの不満もなかった。毎回の授業チェックカードにコメントを記入し返したが、それがよかったと言ってくれた学生がいた。来年も続けたい。改善点は、板書、文字が1名ずつ、説明不十分も1名いた。昨年より減ったが、さらに気をつけたい。

全体としてまとめると次の学生のコメントになる。「なるほど！と思うことは多くあったけど、もし生徒に質問されたらとってつらいです。」